



エコアクション 21 環境経営レポート

対象期間 2025 年度(2025 年 4 月～2026 年 3 月)

作成日 2026 年 7 月 30 日

〈第 14 版〉

Hagoromo はごろもフーズ

目次

社長あいさつ	1
環境経営理念・環境経営方針	2
1. 取組の対象組織・活動	3
2. 推進体制	6
3. 中期環境経営目標	7
4. 環境経営目標と実績（運用期間）	7
5. 環境経営活動計画の取組結果と評価及び 次年度の取組内容	12
6. 環境教育	13
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟の有無	13
8. 地域環境経営活動及び各種活動の評価	14
9. 代表者による全体の評価と見直し	14

社長あいさつ

「環境」と言えば、私はシンプルに次世代の子供たちに残していくべき「青い地球」そのものと考えます。当社の製品の多くは、天産物が主原料です。魚は海水温が1℃変化するだけで、生息域が変化すると言われています。環境の変化に大きく影響を受ける当社は、生物多様性を守ることが重要な経営課題であると考えます。缶詰は、リサイクル率の高い製品です。これは、環境に働きかけることが出来る、当社の強みです。しかし、それだけではまだ足りない事も多いでしょう。企業として行えることは、環境に配慮した機器の導入や、ペーパーレス化などが挙げられます。こちらは、現在も継続していますが、今後も積極的に取り入れていきたいと考えます。また、当事者意識が重要です。家庭の省エネは気にするのに、会社ではそうでない。資源・エネルギーは家庭や会社でも同じように環境に影響します。各人が当事者意識を持ち、それを日々、継続していくことが実を結ぶと考えます。

日々目まぐるしく変わる環境に柔軟に対応し、創業100周年に向け、持続可能な社会への貢献と、信頼されるブランド、更なる企業価値の向上に私自ら先頭に立ち、当事者意識を持って、前進し続けたいと思います。

2025年度のエコアクション21環境経営活動の結果を、環境経営レポートにまとめ公表させていただきます。皆様との環境コミュニケーションを今後も継続することをお約束します。

2026年7月30日



代表取締役社長 後藤 佐恵子



環境経営理念

はごろもフーズは、人と地球に愛される企業を目指し、安全で環境にやさしい食品の製造・販売に努めます。地域社会と共生していく企業として環境保全活動に取り組みます。

環境経営方針

1. エコアクション 21 を全社運動として展開し、SDGs の目標達成に向けて取り組みます。
2. 環境関連法規、条例、規制基準を遵守します。
3. 環境への影響を考慮し、目標を定め、製品の製造、流通・販売の全過程で、資源・エネルギー、二酸化炭素排出量、水使用量を削減します。
4. 廃棄物の発生抑制、減量化を推進します。
5. 食品リサイクル率 100% を達成します。
6. 教育・啓発活動を計画的に推進し、環境に対する従業員の意識の向上、環境保全に関する社内体制の充実を図ります。
7. 持続可能な社会を築くため、ペーパーレス化を推進します。

制定日 2011 年 11 月 7 日

改定日 2019 年 10 月 15 日

代表取締役社長 後藤 佐恵子

1. 取組の対象組織・活動

(1) 名称および代表者

名 称：はごろもフーズ株式会社

代表者：代表取締役社長 後藤 佐恵子

(2) 事業所所在地 (2026 年 4 月現在)

a. 本社

○本社

静岡県静岡市駿河区南町 11 番 1 号 静銀・あいち銀静岡駅南ビル 3F

○はごろもイノベーションセンター

静岡県静岡市清水区島崎町 151

○はごろも桜が丘オフィス

静岡県静岡市清水区桜が丘町 1-10

b. プラント

○焼津プラント

静岡県焼津市大島 742

○新清水プラント

静岡県静岡市清水区島崎町 159

○富士山パスタプラント

静岡県静岡市清水区島崎町 151-1

○サンライズプラント

静岡県焼津市田尻 1855-24

○木曽岬プラント

三重県桑名郡木曽岬町大字栄 288

c. 事業所

※ 4 支店 9 営業所 (●統轄事業所 ●傘下事業所)

●札幌営業所

北海道札幌市中央区北 2 条東 1 丁目 2-10 日宝北 2 条ビル 405 号

●仙台営業所

宮城県仙台市青葉区中央 3-2-1 青葉通プラザ 9 F

●東京支店

東京都中央区八丁堀 1-5-2 はごろもビル 9 F

●関東支店

埼玉県さいたま市大宮区下町 2-18 TS-3 BLDG. 7 F

●静岡営業所

静岡県静岡市清水区島崎町 151

●名古屋支店

愛知県名古屋市中区新栄町 2-9 スカイオアシス栄 12 F

●金沢営業所

石川県金沢市広岡 1-3-10 WESTビルディング 7 F

●大阪支店

大阪府大阪市都島区片町 2-2-48 J R 京橋駅 N K ビル 8 F

●広島営業所

広島県広島市東区光町 2-4-8 ヒロテツ光町ビル 2 F

●岡山営業所

岡山県岡山市北区駅前町 2-5-24 J R 岡山駅第 2 N K ビル 8 F

●福岡営業所

福岡県福岡市博多区博多駅東 1-13-18 A L ビル 4 F

●鹿児島営業所

鹿児島県鹿児島市山之口町 3 番 31 号 住友生命鹿児島ビル 3 階

●沖縄営業所

沖縄県那覇市天久 2-7-7 沖縄広告ビル 3 F

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者氏名・連絡先

環境管理責任者：取締役 品質保証本部長 兼 品質保証部長 兼 分析室長
兼 H I C センター長
給田 尚文

担 当 者：品質保証部 環境問題担当
清水 信幸

連絡先	品質保証部
〒424-0823	静岡県静岡市清水区島崎町 151 はごろもイノベーションセンター 電話 054-354-5013 FAX 054-355-0370
ホームページ	https://www.hagoromofoods.co.jp/

(4)事業内容

食品事業を主な事業内容とし、他に不動産賃貸等を行っています。

- ◎家庭用製品：各種魚介缶詰・果実缶詰・野菜缶詰・レトルトパウチ製品・包装米飯製品・パスタ製品・パスタソース製品・かつお削りぶし・のり・ふりかけ製品・ギフトセットなど
- ◎業務用製品：各種缶詰・レトルトパウチ製品・かつお削りぶし・のり・ふりかけ製品
- ◎その他製品：ペットフード製品など

主要製品ブランド名

「シーチキン」「シャキッとコーン」「ポポロスパ」「パパッとライス」など

(5)事業の規模（有価証券報告書より）

売上高：750億円（連結）
従業員：667人（連結）
床面積：38,236㎡（5工場合計）
：12,291㎡（本社、事業所他）

(6)事業年度

当年4月1日～翌年3月31日

(7)認証登録の対象組織・対象事業所と活動・対象期間

対象組織名：はごろもフーズ株式会社

対象事業所：本社、事業所、焼津プラント、新清水プラント、富士山パスタプラント、サンライズプラント、木曽岬プラントの全活動

対象期間：2025年4月1日～2026年3月31日

(8)はごろもフーズグループビジョン

〈経営理念〉「人と地球に愛される企業を目指します」

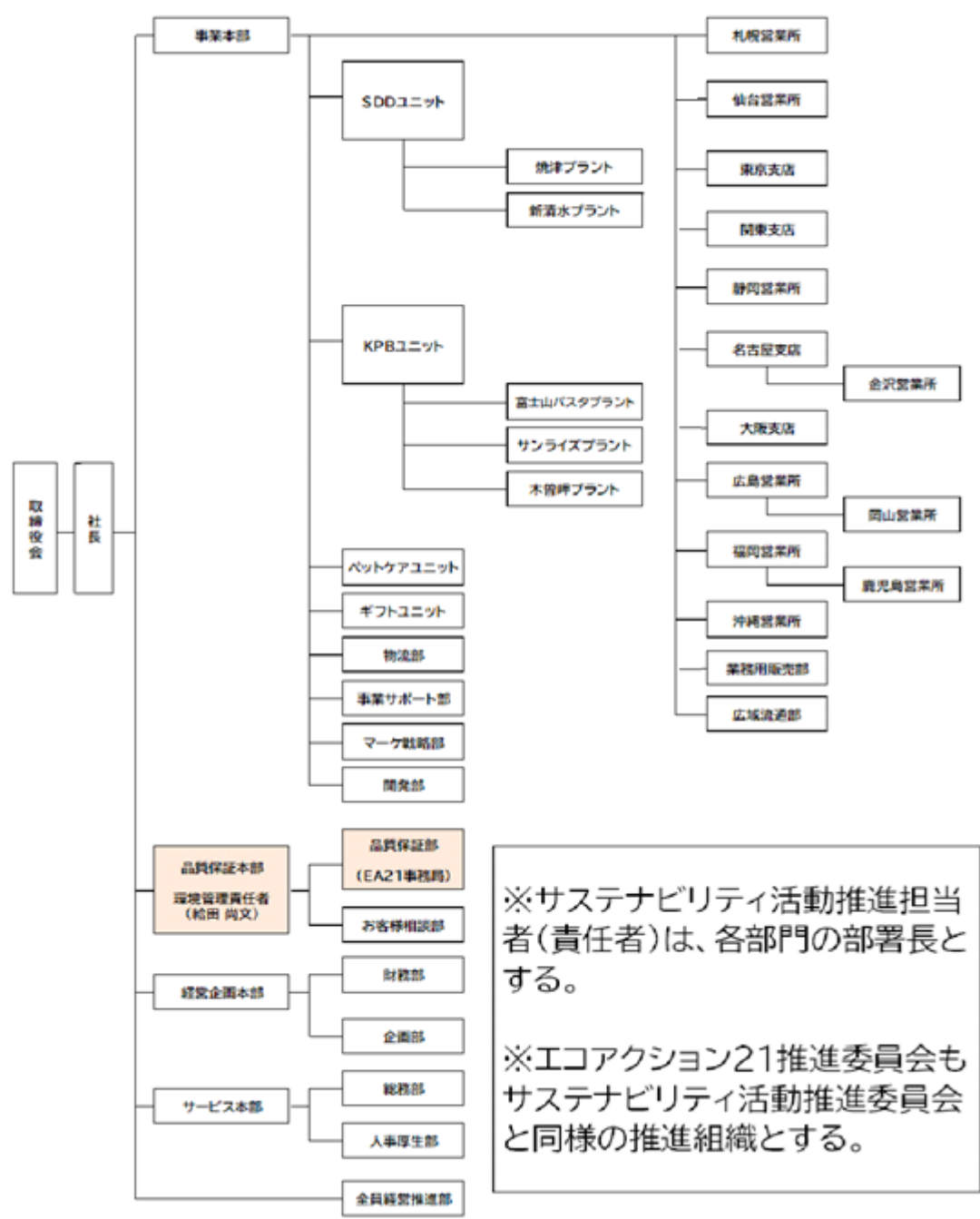
〈コーポレートメッセージ〉「人と自然を、おいしくつなぐ」

〈合言葉〉 1. 全員経営 2. 明るく楽しく 3. 執念を持つ

2. 推進体制

(2026 年 4 月 現在)

(1) サステナビリティ推進体制図



(2) 推進体制の役割

代表取締役社長	●代表者。環境方針を定める。●環境管理責任者の任命。 ●環境経営に必要な経営資源(人財 設備 資金 情報)の用意。 ●システム全体の評価、見直しの実施。
環境管理責任者	●システムの総責任者としての役割、権限を持つ。
E A 21 事務局	●全体計画の立案、文書類の作成・管理。 ●システム運用上の事務管理。
内部環境監査	●各プラント内でシステムの適合性、運用状況を監査する。
E A 21 推進委員	●部署内の環境経営活動を推進する。

3. 中期環境経営目標

(1) エネルギー使用量（原油換算）及び二酸化炭素排出量

製品重量あたりのエネルギー原油換算消費量、及び二酸化炭素排出量を、2022年度比年率1%ずつ削減することを目標とする。

		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	単位	基準	-1%	-2%	-3%	-4%	-5%
原油換算	kl	6,174	6,112	6,051	5,989	5,927	5,865
原単位	kl/t	0.148	0.147	0.145	0.144	0.142	0.141
排出-CO ₂	t	11,517	11,402	11,287	11,171	11,056	10,941
原単位	t/t	0.276	0.273	0.270	0.268	0.265	0.262

(2) 産業廃棄物排出量

2022年度実績を基準とし、毎年0.5%ずつの削減を目標とする。

		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	単位	基準	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
産業廃棄物	t	858	854	849	845	841	837

(3) 食品リサイクル率（再生利用実施率）

		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
リサイクル率	%	99.4	100	100	100	100	100

(4) 水使用量

2022年度実績を基準とし、毎年0.5%ずつの削減を目標とする。

		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
	単位	基準	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
水使用量	m ³	377,698	375,810	373,921	372,033	370,144	368,256
原単位	m³/t	9.040	8.995	8.950	8.904	8.859	8.814

(5) ペーパーレス

紙使用量の削減を図ります。会議等においてタブレットやPCを活用し、資料のデジタル化を進めるとともに、社内稟議や経費精算などの電子化システムの導入を推進します。

4. 環境経営目標と実績（運用期間）

運用期間 2025年4月～2026年3月の実績は以下のとおり。

※① 電力の排出係数は、中部電力ミライズの値（0.000476 t-CO ₂ /kWh）を使用。
※② 自家消費した太陽光による供給電力量。
※③ 食品廃棄物発生量には、焼津プラント及び新清水プラントから排出されるフ

イッシュミール製造用原料及び廃油、富士山パスタプラントから排出される飼料用原料、並びに木曽岬プラントから排出される肥料用原料を含む。

(1) 全組織・活動範囲 (評価方法：○達成 ×未達成 △基準年より向上)

項目		単位	2022年度	2025年度運用期間		評価
			基準	目標	実績	
エネルギー 使用量	都市ガス	千m³	2,376	2,305	1,913	○
				目標比(%)	83.0	
	プロパンガス	t	76	74	70	○
				目標比(%)	95.0	
	購入電力 ※①	千kWh	13,201	12,805	12,276	○
				目標比(%)	95.9	
	供給電力 ※②	千 k Wh	89	—	355	—
(原油換算)	kl	6,174	5,989	5,410	○	
			目標比(%)	90.3		
エネルギー使用量 原単位 (原油換算/生産重量)		kl	0.148	0.144	0.137	○
				目標比(%)	95.2	
二酸化炭素排出量		t - C O ₂	11,517	11,171	10,084	○
				目標比(%)	90.3	
二酸化炭素排出量 原単位 (排出量/生産重量)		t	0.276	0.268	0.255	○
				目標比(%)	95.1	
産業廃棄物排出量		t	858	845	574	○
食品廃棄物発生量 ※③			1,426	—	588	—
再生利用量			1,365	—	552	—
再生利用以外の量			61	—	37	—
食品リサイクル率		%	99.4	100	94	×
水使用量		m³	377,698	372,033	345,806	○
				目標比(%)	93.0	
水使用量 原単位 (水使用量/生産重量)		m³	9.041	8.905	8.735	○
				目標比(%)	98.1	
プラント生産重量合計		t	41,775	—	39,588	—

実績の評価

生産量の減少に伴いエネルギー使用量・二酸化炭素排出量は減少、原単位当たりのエネルギー使用量・二酸化炭素排出量が目標を達成しました。食品リサイクル率は廃棄原料の焼却処分が36.7 t あったため94%となりました。

2026年度の課題

前年度に引き続きエネルギー・製品ロス削減に努め効率の良い製造を実施します。エネルギー使用量原単位を注視し、エネルギー使用量・二酸化炭素排出量の削減を目指します。

(2) 主なエネルギー使用施設の実績

○焼津プラント

まぐろ・かつおを原料にしたツナ缶詰・パウチ製品を製造する工場です。

項目		単位	2022年度	2025年度運用期間		評価
			基準	目標	実績	
エネルギー 使用量	都市ガス	千m ³	458	444	372	○
	購入電力 ※①	千kWh	2,692	2,611	2,610	○
	(原油換算)	kl	1,224	1,187	1,091	○
エネルギー使用量 原単位		kl	0.117	0.114	0.130	×
二酸化炭素排出量		t - CO ₂	2,246	2,179	2,027	○
二酸化炭素排出量 原単位		t	0.215	0.208	0.241	×
産業廃棄物排出量		t	206.1	203.0	108.5	○
食品リサイクル率		%	100.0	100	100	○
水使用量 原単位		m ³	139,601	137,507	120,307	○
		t	13.353	13.152	14.302	×
生産重量		t	10,455	—	8,412	—

実績の評価

生産重量の減少に伴い、エネルギー使用量・二酸化炭素排出量・水使用量が減少しましたが、原単位あたりのエネルギー使用量・二酸化炭素排出量・水使用量が目標未達でした。

○新清水プラント

まぐろ・かつおを原料にしたツナ缶詰を製造する工場です。

項目		単位	2022年度	2025年度運用期間		評価
			基準	目標	実績	
エネルギー 使用量	都市ガス	千m ³	269	261	260	○
	購入電力 ※①	千kWh	1,936	1,878	1,780	○
	供給電力 ※②	千 kWh	89	348(2023年度)	350	—
	(原油換算)	kl	799	775	750	○
エネルギー使用量 原単位		kl	0.114	0.111	0.088	○
二酸化炭素排出量		t - CO ₂	1,488	1,443	1,396	○
二酸化炭素排出量 原単位		t	0.213	0.206	0.163	○
産業廃棄物排出量		t	139.3	137.2	94.1	○
食品リサイクル率		%	100.0	100	100	○
水使用量 原単位		m ³	71,580	70,506	77,588	×
		t	10.227	10.074	9.084	○
生産重量		t	6,999	—	8,541	—

実績の評価

生産重量は増加しましたが効率の良い製造に努め、エネルギー使用量・二酸化炭素排出量、原単位あたりのエネルギー使用量・二酸化炭素排出量で目標を達成しました。

○富士山パスタプラント IS014001 認証取得

スパゲッティ・マカロニなどのパスタ製品を製造する工場です。

項目		単位	2022年度	2025年度運用期間		評価
			基準	目標	実績	
エネルギー 使用量	都市ガス	千m ³	354	343	376	×
	購入電力 ※①	千kWh	3,639	3,530	3,860	×
	供給電力 ※②	千 kWh	—	—	5	—
	(原油換算)	kl	1,323	1,283	1,404	×
エネルギー使用量 原単位		kl	0.084	0.082	0.089	×
二酸化炭素排出量		t - CO ₂	2,479	2,405	2,630	×
二酸化炭素排出量 原単位		t	0.158	0.153	0.166	×
産業廃棄物排出量		t	14.5	14.3	19.4	×
食品リサイクル率		%	100.0	100	100	○
水使用量 原単位		m ³	9,905	9,756	11,396	×
		t	0.631	0.621	0.721	×
生産重量		t	15,701	—	15,808	—
実績の評価						
生産重量増加に加え長時間の停電や機器の故障により、エネルギー使用量・二酸化炭素排出量が増加、原単位あたりのエネルギー使用量・二酸化炭素排出量も目標未達でした。2026年度は目標達成に向け効率の良い製造に努めます。(2025年11月より発電量計測						

○サンライズプラント

包装米飯製品「パパッとライス」を製造する工場です。

項目		単位	2022年度	2025年度運用期間		評価
			基準	目標	実績	
エネルギー 使用量	都市ガス	千m ³	888	861	883	△
	購入電力 ※①	千kWh	1,478	1,434	1,369	○
	(原油換算)	kl	1,406	1,364	1,372	△
エネルギー使用量 原単位		kl	0.349	0.339	0.333	○
二酸化炭素排出量		t - CO ₂	2,576	2,499	2,512	△
二酸化炭素排出量 原単位		t	0.640	0.621	0.610	○
産業廃棄物排出量		t	62.2	61.3	80.6	×
食品リサイクル率		%	100.0	100	100	○
水使用量 原単位		m ³	115,687	113,952	127,804	×
		t	28.749	28.318	31.020	×
生産重量		t	4,024	—	4,120	—
実績の評価						
生産重量が増加し、都市ガスの使用量・二酸化炭素排出量が増加しましたが、電力使用量を抑えたことが寄与し、原単位当たりのエネルギー使用量・二酸化炭素排出量は目標を達成できました。水使用量は清掃方法変更により増加しています。						

○木曽岬プラント（木曽岬第二プラント含む）

乾物製品（削りぶし・味付のり、焼のり加工品、ふりかけ類）を製造する工場、木曽岬第二プラントは、原料保管冷蔵庫です。

項目		単位	2022年度	2025年度運用期間		評価
			基準	目標	実績	
エネルギー 使用量	プロパンガス	t	75	73	69	○
	購入電力 ※①	千kWh	2,006	1,946	1,957	△
	（原油換算）	kl	614	596	586	○
エネルギー使用量 原単位		kl	0.187	0.181	0.216	×
二酸化炭素排出量		t - CO ₂	1,247	1,210	1,140	○
二酸化炭素排出量 原単位		t	0.380	0.368	0.421	×
産業廃棄物排出量		t	112.1	110.4	59.0	○
食品リサイクル率		%	100.0	100	100	○
水使用量 原単位		m ³	7,665	7,550	6,148	○
		t	2.334	2.299	2.270	○
生産重量		t	3,284	—	2,708	—
実績の評価						
生産重量の減少により、プロパンガス使用量は減少しましたが、機器の増設に伴い電力使用量が増加しました。原単位あたりのエネルギー・二酸化炭素排出量が未達成でした。						

○太陽光発電事業

・サンライズプラント太陽光発電設備

事業計画により 2025 年 10 月より発電を停止。2027 年 1 月に再開予定。

2025 年度実績 255 千 kWh

・清水太陽光発電所

静岡市清水区にある貸倉庫の屋根にパネルを設置、発電出力 189 kW で年間発電量、約 220 千 kWh を売電。

2025 年度実績 221 千 kWh



5. 環境経営活動計画の取組結果と評価（運用期間 2025 年 4 月～2026 年 3 月） 及び次年度の取組内容

（1）2025 年度環境経営活動計画の取組結果 部署取組状況

部署	エネルギー 使用量	二酸化炭素 削減	水使用量	産業廃棄物 排出	食品リサイ クル率	環境教育
本社・事業所	○	○	○	○	△	○
焼津プラント	○	○	○	○	○	○
新清水プラント	○	○	△	△	○	○
富士山パスタプラント	△	△	△	△	○	○
サンライズプラント	△	○	△	△	○	○
木曽岬プラント	△	○	○	○	○	○

（十分できた・できた○ かわらず＝ できなかった△）

（2）活動取組の主要実績

①ペーパーレス化

会議等でタブレットやPCを活用し資料のデジタル化を推進。

勤怠管理・経費精算等順次電子システムを導入。

工場・品質保証部などの管理記録表のデジタル化を推進。

②社用車

業務内容にあわせ、コンパクトカーやハイブリッド車など二酸化炭素排出量の少ない車両に順次入れ替えを実施。

ガソリン使用量は 60,597 リットル、二酸化炭素排出量は 140,585 kg となりました。（2024 年度 64,791 リットル、150,315 kg 前年度比 93.5%）

*ガソリンの CO2 排出量は 1 リットル当たり 2.32 kg-CO2 としました。

③全社の二酸化炭素総排出量は 10,326,216 kg となりました。

（3）2026 年度（次年度）の環境経営活動計画重点課題

本社・事業所	
本社・事業所	○クールビズ・ウォームビズの徹底 ○時間外労働時間の更なる削減 ○各種申請書類等の電子化による紙使用量の削減 ○エコドライブの推奨 ○eco 検定受験推進
プラント	
焼津プラント	○産業廃棄物発生量の削減 ○eco 検定受験推進
新清水プラント	○コンプレッサー、エアコンの運転状況注視による節電対策 ○産業廃棄物排出量の削減 ○eco 検定受験推進
富士山パスタプラント	○廃熱・エアリー漏れ対策の実施 ○製品水分値の管理を徹底し、歩留まりの向上を目指す ○包材ロス削減を図り、廃棄物の発生を抑制する ○eco 検定受験推進
サンライズプラント	○蒸気・エアリー漏れ対策の実施 ○製品やエネルギーのロスにつながるトラブルを防ぎ、 効率の良い製造をする ○eco 検定受験推進
木曽岬プラント	○効率の良い製造を行い、エネルギー使用量、製造ロスを削除する。 ○eco 検定受験推進

6. 環境教育（従業員教育）

東京商工会議所主催の環境社会検定（eco検定）の学習受験を全社員に推奨しています。合格者には「エコアクション21ナビゲーター」として社内認定証を授与しています。2025年度末で「エコアクション21ナビゲーター」が413名（延べ人数）となりました。社員の環境に対する意識が高まり、環境学習に挑戦する社員が増えています。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

焼津プラント：G 富士山パスタプラント：P サンライズプラント：S

木曽岬プラント：K 新清水プラント：S S

各確認者（工場長）

確認日 2026年3月31日

適用法令	適用事業所					対象	内容 確認事項
	G	P	S	K	S S		
環境基本法	○	○	○	○	○	全社	●環境に関するの基本理念、事業所の責務と遵守事項を定める。
大気汚染防止法	○	○	○	○	○	ボイラー	●ばい煙、窒素酸化物濃度の遵守。 ●事故時の応急措置、届出。
水質汚濁防止法	○	—	○	—	—	排水処理施設	●排水基準の遵守。 ●水質測定、記録。
振動規制法	○	○	○	○	○	製造設備	●振動基準値内確認。
騒音規制法	○	○	○	○	○	製造設備	●特定施設届出。
悪臭防止法	○	—	○	○	—	—	●臭気の基「特定悪臭物質」の規制。
浄化槽法	○	—	○	—	—	浄化槽設置事業所	●浄化槽を設置の届出確認。 ●保守点検、清掃の規制遵守。
フロン排出抑制法	○	○	○	○	○	全社	●漏洩点検の為に機器の「簡易点検」及び「定期点検」の実施記録・保管（専門業者依頼可）。
消防法	○	○	○	○	○	全社	●工場または作業場従業員 50 人以上、防火管理者の届出、消防計画の作成。
食品循環資源の再利用等の促進に関する法律	○	○	○	○	○	全社	●年間 100 トン以上の食品廃棄物等発生量の食品関連事業者対象。定期報告 6 月提出。 ●食品製造業 95%以上維持
エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律	—	—	—	—	—	全社	●エネルギー管理統括者、企画推進者の選任 ●定期報告書、中長期計画書提出。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○	○	○	○	○	全社	●産業廃棄物の保管場所の表示

- (1) 当社に関連する環境関連法規等（上記リスト）の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
- (2) 2025 年度は、地域住民等からの環境上の苦情・指摘が 1 件ありました。
焼津プラント：休日に浄化槽制御盤よりブザー音が出ていると指摘。ブザー式からランプ式に変更し異常時に音が出ないように改善した。

8. 地域環境経営活動及び各種活動の評価

東京商工会議所ホームページに、当社は eco 検定推進企業として、環境経営レポートが紹介掲示されています。[東京商工会議所 eco 検定推進企業](#)

9. 代表者による全体の評価と見直し

(1) 環境管理責任者からの実績報告と提言

全組織においては、生産数量の減少に伴い、エネルギー使用量および二酸化炭素排出量が減少しました。また、効率的な生産活動に努めた結果、原単位当たりのエネルギー使用量および二酸化炭素排出量についても目標を達成することができました。2026 年度も引き続き原単位当たりのエネルギー使用量を注視するとともに、トラブルによるロス削減を推進し、エネルギー使用量および二酸化炭素排出量のさらなる削減に努めます。

(2) 環境管理責任者からの見直し関連情報

	項目	検討事項・課題
見直し 関連情報	1 E A21 文書	分かりやすい表現を継続検討する。
	2 環境経営目標及び目標達成状況	部署内での状況把握を推進する。
	3 環境経営計画及び取組状況	計画に定量・定数を明確にする。
	4 環境関連法規要求一覧及び取組状況	部署長による確認の実施。
	5 外部コミュニケーション・対応記録	部署における対応内容の記録確認。
	6 問題点の是正・予防処置の実施状況	内部環境監査項目を精査する。
	7 環境関連要求事項の変更、外部動向等	環境関連協会等の積極的活用。
	8 現場の環境教育訓練の課題	従業員の環境教育の充実を図る。

(3) 代表者の全体の評価と見直し指示事項

レビュー・ アウトプット	安心安全のものづくり体制の構築を図り、引き続きエネルギー使用の効率化を追求すること。 産業廃棄物は、資源循環の促進を図るとともに削減を継続すること。		
	見直し項目	変更	指示事項等
1	環境経営方針	無	産業廃棄物の発生抑制を徹底すること。
2	環境経営目標・計画	無	適切に環境経営評価をすること。
3	環境経営計画・取組事項	無	各部署エネルギー使用分析をすること。
4	システムの見直し	無	適正である。
5	部署に特化する事項	無	部署ごと特長ある環境活動をすること。

実施日 2026 年 7 月 30 日

代表取締役社長 後藤 佐恵子